

被害を減らすための捕獲技術

一箱わなの餌付け技術編一

1 被害軽減に必要なこと

シカやイノシシなど野生動物による農業被害を減らすためには、
①防護柵を適切に設置し管理する。
②それでも侵入してくる加害個体を特定し、集中的に捕獲する。
③加害個体の供給源となる柵の外側の生息数を適切な密度に管理する。
といった対策を組み合わせることが必要です。

①と②は集落が組織的に進め、③は行政主導で進めるなど、それぞれが役割に応じ、連携して対策を進めることが求められます。

被害軽減に必要なこと



2 捕獲体制の重要性

農地に侵入してくる加害個体を捕獲するには、狩猟免許を持っている人の協力を得るか、新たに免許を取得することが必要ですが、免許を持たない人も、エサまきやわなの見回りなど毎日の作業の中で協力することがあります。

集落の被害を減らすための捕獲作業ですので、特定の人に負担が偏ることのないよう、組織的な捕獲体制づくりが大変重要です。

狩猟免許を持っていない人が
出来ること（○）、出来ないこと（×）

	わな セット	えさまき	見回り	誤作動等によるわなの 再セット	止めさし
免許非所有者	×	○	○	×	×
免許所有者	○	○	○	○	○

※狩猟期間（兵庫県では 11/15 ～ 2/15（シカ、イノシシは 3/15））以外にシカやイノシシを捕獲する場合は、狩猟免許のほかに有害鳥獣捕獲許可が必要となりますので、市町の所管課にお問い合わせください。

3 餌付けの方法

様々な捕獲技術のうち、ここでは初心者にもわかりやすい箱わなの餌付け方法について、シカやイノシシを捕獲する場合の事例を解説します。

(1) エサの種類

安価で入手しやすく、誘因効果も高いエサとして、米ぬかが一般的に広く使われていますが、その時々で被害にあっている作物でも高い誘因効果を示すことがあります。



コメヌカ



廃棄作物

(2) エサの量

エサが多すぎると、檻の外のエサで満足してしまうなど、うまく誘導できなかったり、足跡だらけで寄り付き具合が判断できなくなる場合があります。

寄り付き具合に応じて量や場所を調節しながら誘引していきます。



エサが多すぎる事例



エサが多すぎる事例



適切な誘導の事例



適切なエサ量の事例

(3) エサまきのパターン

① 準備段階

加害獣が警戒するので、捕獲檻は獣道の真上には置かないようにします。

檻は獣道の近くに置くのが基本ですが、傾斜がある、車が入れないなどの理由で少し離す場合は、檻を置く前に獣道から設置予定地まで加害獣を誘導します。

丼 1 杯ほどのエサを数か所まき、設置予定地のエサが完食されるようになったら、初めて檻を置くようにします。



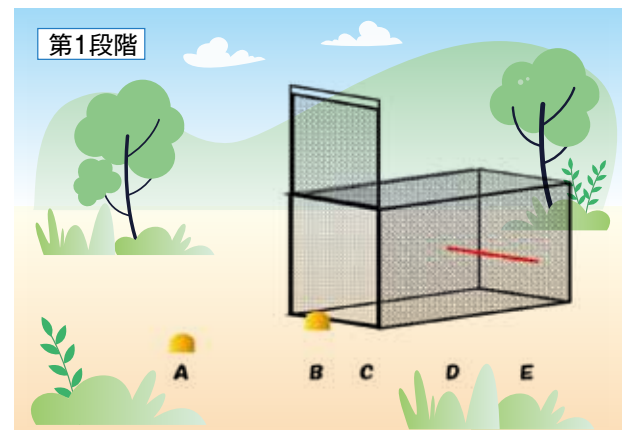
② 第1段階

檻を設置すると、警戒してしばらく寄り付きが無くなる場合があるので、檻から少し離れた場所から誘導しなおします。

順調に檻の近くのエサを食べだしたら、右図のようにA、B 2か所に丼 1 杯程度のエサを置き、食べ方を観察します。

トリガーは本番同様にセットし、本番まではロックしておきます。

Aのエサを完食しだしたら第2段階に移行します。

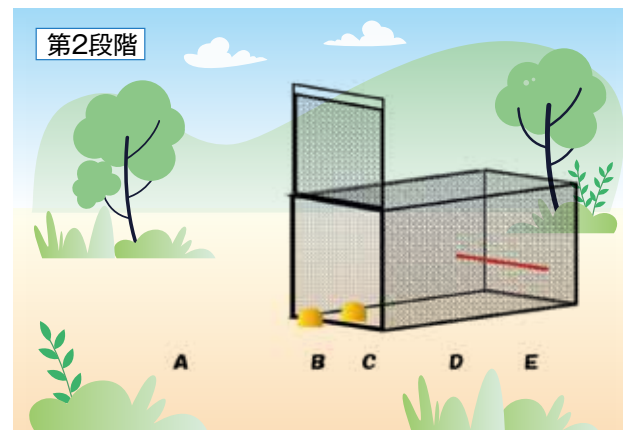


③ 第2段階

檻の入り口の内（B）と外（C）に丼 1 杯ずつエサをまきます。この時、決してAの場所にはエサを置かないようにします。

以下同じ。後戻りは厳禁です。

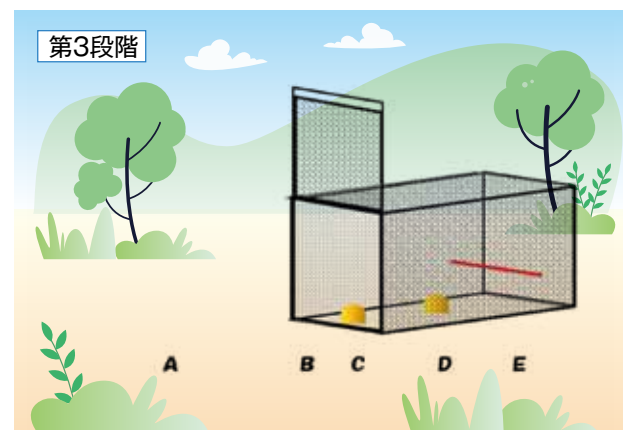
Bのエサを完食しだしたら第3段階に移ります。



④ 第3段階

檻の入り口のすぐ内側（C）と、檻の中央付近（D）に丼 1 杯ずつエサをまきます。

Cのエサを完食しだしたら第4段階に移ります。



⑤ 第4段階

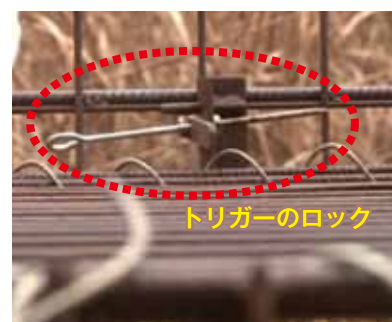
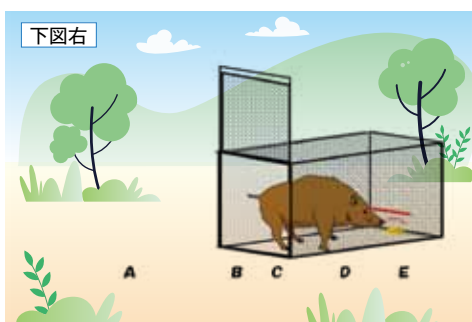
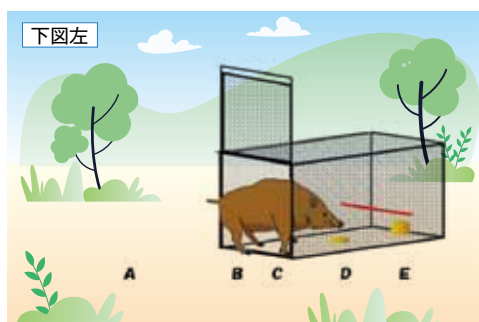
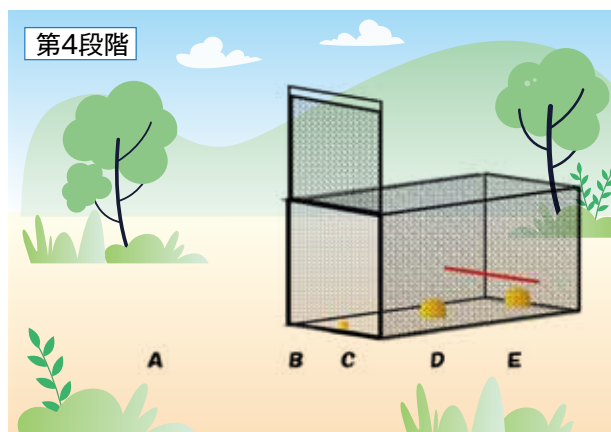
檻の入り口の内側 (C) にひと握り、檻の中央 (D) と一番奥 (E: トリガーよりも奥) に丼1杯程度のエサをまきます。

下図左のようにDの位置では、まだ後足が檻の外に出ています。

下図右のようにEのエサを食べるには後足を檻の中に入れる必要があります。

Eのエサに食痕が見られたら、すぐに捕獲本番に移ります。

エサの位置は第4段階のまま、ここで初めてトリガーのロックを外します。



4 情報の共有

「エサまきのパターン」で示したように、効率的に捕獲するためには、日々の見回りと、足跡やエサの食痕などの痕跡からどこまで餌付けが進んでいるかを判断し、チャンスを見逃さずに捕獲本番に移ることが大変重要です。

複数人が見回りを分担する場合、チャンスを見逃さないためには、日々変わっていく餌付けの進み具合の情報を共有する必要があります。

そのためには下記のような記録表を作成し、檻の近くの共用のBOXに置くなどして情報の共有を図ります。

箱罠 給餌記録表

月日	曜日	給餌者	摂食状況 5. 完食、4. 半分以上摂食、3. 半分以下摂食、 2. 摂食した形跡あり、1. 摂食した形跡なし 元々餌を置いていない場合は×					餌付け 段階	餌交換 (交換または新しく 置いた場合は ○、現状のまま は×を記入して ください)	備 考
			A	B	C	D	E			
5月1日	月	廣瀬	5	4	×	×	×	1	○	Aを完食したため、第2段階に移る
5月2日	火	井上	×	4	1	×	×	2	○	タヌキが来ている。タヌキ除けに石を積んだ
5月3日	水	野口	×	5	3	×	×	2	○	Bを完食したため、第3段階に移る

